

新しい時代を拓く大切なものの見方、考え方を提言する「くだけけ」

モノやヒトを大切に

和田重良

新しい生命感のあふれる四月になりました。

三年前の大震災と原発事故以来、日本人の心の揺れ所はどこかへ見失っているように揺れ動いているように思うのは僕だけでしょうか？

ある人は昔に戻って安心しようとし、ある人は権威にしがみつこうとし、ある人は強気で突破しようとし、肝心の足元を見失ってしまうのです。

そこで、「くだけけ会」はちゃんと足元を見直して、老いも若きも本物の「あんしん」を得ながらゆるぎない心

の成長をみなさんといっしょに求めて行きたいと願っています。

◆「大切にす」

くだけけ生活舎では「日めくり」にもあるように「紙や電気や水を大切に」と言っています。節約と言う意味もありますが、無駄をしない努力や工夫をすると、こころが整うのです。整うと全体が調うのです。だらしなく扱々と段々と心が乱れてくるのがよくわかるでしょう。

現代人の心の揺れは「大切にしない」という所から生じてくるのです。

便利におぼれて、出し惜しみが身につきます。なのに時間が足りなくなります。何もしていないのに気持ちだけ急いでいる人が多いのです。乱暴な気持ちになり、自己破壊的なものにまで発展してしまいます。

ていると思うわけです。

◆そこに真正面に向き合う

もう一つ重要なことは「ヒトを大切にす」ということです。

「教育」の中ではこの視点が抜けたらまったく何をしているのか分からなくなってしまう。「ヒトを大切にす」ことのない「教育」なんてものにはその声が聴こえなくなってしまう。

「教育」が悪いのです。家庭の生活が根本を忘れてしまったからなのです。

モノを大切にすための労力の出し惜しみをしなければ、時間とこころに余裕ができます。要するにこころが調うのです。気持ちにケジメができるから

です。人間は際限なき進歩を求めのをそろそろやめなければならぬ時が来ています。自然を喰いつくし、生命環境を破壊し続けているのですから、限度が来

とでしようか。ぼくは「個の尊厳を守る」と「感謝」の両方だと思っっています。

相手は大したヤツではないからと、イイカゲンに接してはいけません。どんな人であろうとも

「自分」のことは「大事な存在」だと思っています。個として（一個の人間として）尊厳をもっているのです。ですから、他人と比較をして存在を否定しないことなどは基本的なことです。そこに「有り難い」

存在への感謝があれば「教育」が成立するのです。相手を活かす、育てるのがぼくら（人間）が生き

ている使命ですから、自分が何歳でもそこに出発点があると思っして下さい。

モノやヒトを大切にすということは、そこに真正面に向き合うことが必要だということは考え付くのですが、真正面に向き合うのにはどうしたらよいかと問われます。

そこで、「両手をつかおう」と言っっているのです。要するに理屈で理解することではなくて、とにかく真正面に向き合っしてみるのです。

両手を使えば、片手でもやっってしまうことでも心がついてきます。大切にすというところが発揮

できるのです。カミの宿るモノが「大切に使っ

ようだい」といつている声がちゃんと聴こえてくるのです。人をちゃんと大切にすのにはどうしたらよいかも見えてくるのです。

モノやヒトを大切にしないといくと、「お国のために使い捨て」という考えになっしまいました。また、子どもを大切にしていると言いながら「何でも困難なことは親がやってあげてしまっ」というのも間違いです。ちつとも大切にしています。

「自分」を大切にすということも大事なことです。「自分」に真っ真正面に向かってみなければなら

ないのです。そのためにも「モノやヒトを大切に」してることが必要です。

「くだけけ」は新しい時代を拓いていく「ものの見方、考え方」を提言していきます。次号6月号は「こころが楽になる話」を提言する予定です。



和田重良 (くだけけ会代表) 誰もがあんしんしてその人らしく生きることをお願い、35年以上にわたり青少年や家庭の生活にさまざまなメッセージを送りつづけている。「両手で生きる」「子ども版人生タネの本」「いのちの満足」など著書多数。NHKテレビ・ラジオ深夜便「こころの時代」、テレビ静岡制作「テレビ寺子屋」などに出演。